

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会の 取組紹介

松本 充弘

関東地方整備局 河川部 河川環境課 (〒330-9724 埼玉県さいたま市中央区新都心2-1)

コウノトリやトキを指標とした水辺環境等の保全・再生、それらに併せた河川及び周辺地域における水辺環境の保全・再生方策の推進を目指す「関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会」では、多様な主体の協働・連携によりエコロジカル・ネットワークの形成推進に取り組んでいる。関東地方整備局河川部河川環境課は、当該協議会の事務局として活動しており、様々な取組を実施している。

本論文では、これまで当該協議会で実施した取組のうち、特徴的な取組を抽出し、考察する。

キーワード エコロジカル・ネットワーク、広報、地域振興・経済活性化

1. 背景と目的

「関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会（以下、関東エコネット協議会）」は、平成20年度に閣議決定された国土形成基本計画（全国計画）「エコロジカル・ネットワークの形成」、平成21年度に策定された首都圏広域地方計画「南関東水と緑のネットワーク形成プロジェクト」及び平成22年度第10回生物多様性条約・締約国会議における「愛知目標」等をうけ、平成25年度に東京都市大学涌井史郎教授を会長として設立された。なお、平成22年度には約30の自治体で構成される「コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム」が設立された。その後、関東エコネット協議会により、平成26年度に「関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成 基本構想」が、平成27年度に「同 基本計画」が策定された。

関東エコネット協議会は、「関東地域におけるコウノ

トリ・トキを指標とした河川及び周辺地域における水辺環境の保全・再生方策の推進と併せて、コウノトリ・トキをシンボルとしたにぎわいのある地域振興・経済活性化方策に取り組み、広域連携モデルとしてのエコロジカル・ネットワークの形成によるコウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくりの実現すること」を目的としている。

設立の背景には、都市化の進行に伴う生態系の喪失に対する解決策として、貴重な水辺空間・緑地空間を保全・再生し、水と緑のネットワークの形成を図り、野生生物の生育・生息空間を確保することが社会的に求められていることがあった。関東地方整備局河川部河川環境課は、それらの実現が前述の国土形成計画等各種計画の実現に寄与するとの認識により、関東エコネット協議会事務局として活動している。

現在、関東エコネット協議会は学識経験者、自治体、民間団体、行政機関等の36名で構成され、エコロジカル・ネットワーク形成のための柱となる3つのテーマ



図-1 連携イメージ

「コウノトリ飼育・放鳥条件整備（たね地づくり）」、「コウノトリの生息環境整備・推進（定着地づくり）」、「コウノトリ地域振興・経済活性化（人・地域づくり）」を検討する専門部会（たね地づくり専門部会、定着地づくり専門部会、人・地域づくり専門部会）を設置すると共に、検討された取組を実践する流域エリア（図-2 参照）のうち、先進的なエリア（渡良瀬遊水地エリア、利根運河周辺エリア協議会、荒川流域エリア、図-2における赤字表示エリア）で立ち上げられた流域エリア協議会等と連携（図-1 参照）して活動中である。

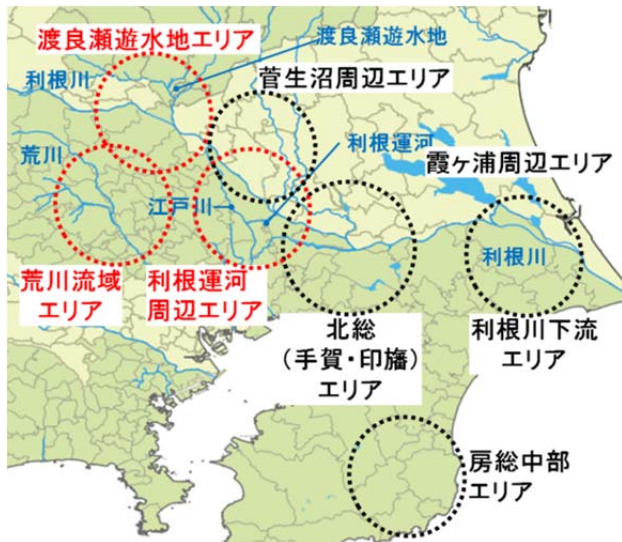


図-2 流域エリア概略位置図

2. 専門部会の概要

各専門部会の概要、主な検討事項は以下のとおり。

(1) たね地づくり専門部会

学識経験者、動物園関係者等9名で構成されており、主にコウノトリの保護と野生復帰の取組を検討。

- ① コウノトリの飼育・放鳥拠点の整備推進
- ② 野外個体モニタリング体制検討
- ③ コウノトリに関する情報発信

(2) 定着地づくり専門部会

学識経験者、市民団体等8名で構成されており、主にコウノトリの生育環境の保全・再生の取組を検討。

- a) 河川におけるワンド・湿地環境等の創出
- b) 水域の連続性の確保
- c) 環境に優しい農法の推進
- d) 水田の冬期湛水によるコウノトリの餌場確保

(3) 人・地域づくり専門部会

学識経験者、社会福祉法人、金融機関、マスコミ、小売業法人等13名で構成されており、主にコウノトリを通じた地域振興・地域活性化の取組を検討

- a) 体験活動の推進
- b) 環境教育や食育の推進

- c) 市民活動の促進
- d) 環境に優しい農法による地場産業等の推進

3. 広報に関する取組

関東エコネット協議会で平成29年度に実施した主な広報活動は以下のとおり。

(1) 「ジャパンバードフェスティバル2017」

コウノトリをシンボルとしているため、愛鳥家に向けて、関東エコネット協議会の取組を説明するパネルをブースを設置し、展示。

(2) 「多様な生きものでつながる地域づくりシンポジウム」開催

関東エコネット協議会より、会長、鴻巣市・野田市・小山市の市長、イオン(株)担当部長、関東地整河川部長、その他学識者等と、国立科学博物館長により、これまで・今後の取組について講演いただいた。

(3) エクスカーション「上野動物園でコウノトリを知ろう！」開催

(4) 「多様な生きものでつながる地域づくりコーナー」

上記(3)と併せて、上野動物園内に関東エコネット協議会の取組説明パネルと関係9自治体によるコウノトリに関連した取組（外来種駆除イベント、コウノトリ関連農産物、各種環境保全等）の紹介ブース展示を実施。

(5) 荒川知水資料館アモアにおける企画展開催

関東エコネット協議会及び各自治体の取組紹介パネルの展示。イベントとして「竹筒で炊いたコウノトリ米を食べよう！」を実施。また、別イベントとしてコウノトリ米の販売を試行。

このうち、(3)について、特徴的な取組として詳しく紹介する。

4. 動物園と連携した広報の取組

(1) 特徴的な内容

本取組では、関東エコネット協議会の取組を直接広報対象とはせず、シンボルとなる“コウノトリ”の生態や保護、増殖をメインに広報している。また、広報の方法もコウノトリ実物を見ながら動物園飼育員から説明を行う（図-3 参照）方法を採用している。

この取組の狙いは、指標種としている「コウノトリ」に好意をもっていたいただいた方に、関東エコネット協議会の取組を理解し、賛同・応援していただくことを設定し、取組の理解だけでなく、好意を持っていただくことによる関東エコネット協議会の取組推進への持続的に賛同いただくことを目的とした。



図-3 動物園飼育員による説明風景

(2) 取組の成果

参加者35名にアンケートをおこなったところ、参加動機の80%以上が「コウノトリ、動物園スタッフの話に興味があったから」との回答であったが、取組終了後に6%の方が説明内容の内「関東エコネット協議会の取組が一番心に残った」と回答しており、少数ではあるが狙いとしていた「コウノトリに好意をもっていただいた方に、関東エコネット協議会の取組を理解し、賛同・応援していただく」ことが出来たと言える。また、94%が「コウノトリへの関心が高まった」と回答しており、もう一つの狙い「動植物に興味をお持ちの方々に、コウノトリへの好意を強めていただく」こともできたと言える。

なお、同アンケートにおける「コウノトリ飼育施設に、今回の説明パネルが常設展示されていると良い」とのご意見を参考に、統一されたキーワードと関東エコネット協議会の取組である旨を記載したコウノトリ説明看板を作成し、多摩動物公園、恩賜上野動物園、井の頭自然文化園、埼玉県子ども動物自然公園、野田市こうのとりのに設置を行った。これにより、本取組で得られた成果が、継続的に看板設置箇所で見現すること期待している。

(3) 課題

今回の広報により、新しい対象に新しい切り口で広報活動を行うことができたが、今回の取組によりどのような面にどの程度の効果が現れるかは、現時点で不明である。少なくとも取組の参加者に関東エコネット協議会とその取組をご理解いただいたが、継続的な効果があるかは不明である。

今後、本取組を継続する場合は、効果検証、他手法との比較等を必要に応じて行いつつ継続する必要がある。

5. 地域振興・経済活性化に関する取組

関東エコネット協議会で平成29年度に実施した地域振興・経済活性化に関する取組は以下のとおり。

(1) 農業との連携による地域振興・経済活性化

主に、コウノトリの餌場となる環境を整えた水

田で収穫された米（酒等の米を材料としたものを含む）を“コウノトリ”に関連したブランド米として付加価値をつけ、地域の経済活性化とエコロジカル・ネットワーク形成を結びつけることを狙う取組。

現在、千葉県いすみ市・野田市、栃木県小山市、埼玉県鴻巣市にて実施中（図-4 参照）。なお、各市とも当該米を学校給食で使用。



図-4 コウノトリ米イメージ

(2) 観光との連携による地域振興・経済活性化

このうち、(2)について、特徴的な取組として、詳しく紹介する。

6. 観光と連動した地域振興の取組

(1) 特徴的な内容

本取組の最終的な目標は、関東エコネット協議会の取組に関連した箇所を含む商業ツアーを旅行会社及び自治体等により運営し、観光客を呼び込むことである。他の取組と異なる点は、通常の河川事業ではフィールドとしない“河川区域外”もフィールドとしていることと、目的が地元の“経済活性化、地域振興”である点である。

これらを目標に平成29年度は荒川流域と渡瀬瀬遊水地周辺において、日本に留学中又は研修中の外国人を対象にモニターツアーを実施した。今回、外国人を対象にした背景には人・地域づくり専門部会で出された「当該地は日本人を集客する観光資源としてはあまり期待できないのでは？しかし、外国人観光客は日本の一般的な生活等に観光資源としての魅力を感じる傾向にある。また先進的に動くことでの優位性もある」というご意見がある。これを考慮し、平成29年度はインバウンドを意識した試行を行った。それぞれのモニターツアーの概要は以下のとおり。

a) 荒川の治水と自然・歴史文化・食に触れるツアー

開催日：平成29年8月10日

参加者：15名（留学生9名とその家族）

視察場所：忍城、古代蓮の里、コウノトリを育む会モ

デル水田、荒川御成橋付近、北本自然観察公園、鴻神社 等

b) **ラムサール条約湿地登録 渡良瀬遊水地自然・歴史・文化に触れるコウノトリツアー**

開催日：平成29年9月30日

参加者：9名（イオングループ 中国人研修生と家族）

視察場所：雷電神社、渡良瀬遊水地（谷中村跡、第2調設池湿地再生箇所）、ふゆみず田んぼ、煉瓦窯、間々田ひも、道の駅 等

(2) 取組の成果

ツアー終了後、参加者に行ったツアー全体工程に対するアンケートでは、a) 荒川ツアーは約15%が「とても満足」、約75%が「満足」、約15%が「普通」という結果に、同じくb) 渡良瀬遊水地ツアーは約60%が「とても満足」、約40%が「満足」という結果になった。また、箇所毎の評価のうち、関東エコネット協会の関連箇所は以下のような評価となった。

a) **荒川：コウノトリを育む会モデル水田**

約58%が「とても面白かった」、約42%が「面白かった」との回答。水田及び水田の生き物を実際に見ることができたことを評価する意見が多かった。一方、より詳細な説明及び英語版説明資料を望む意見もあった。

b) **渡良瀬遊水地周辺：第2調設池湿地再生箇所**

約13%が「面白かった」、約87%が「普通」との回答。ガイドの説明を評価する意見もあったが、一般の観光客には退屈、あまり見るものがないとの意見があった。

c) **渡良瀬遊水地周辺：ふゆみず田んぼ**

約63%が「面白かった」、約37%が「普通」との回答。日本の米・農業への興味が高いとの意見が多かったが、体験型プログラムを望む意見があった。

(3) 課題

今回、関東エコネット協議会関連箇所のうち、水田関連については、興味をもっていただけたが、湿地再生箇所等についてはあまり興味を持てただけでなかった。

今後、自然再生箇所等を行程に加える必要がある場合は、見せる場所の選定・説明方法改良や体験型プログラムを加えるなどの工夫する必要がある。

また、関東エコネット協議会としての関わりを持ちつつ、旅行会社と自治体にツアー運営していただき、かつ、経済活性化に繋げるためには、行程や費用など今後様々な検討が必要となる。

その際には、関東エコネット協議会として、“地元（法人や個人）が収益を得る”と、どのような関係・程度で係わるのかを整理することが必要となる。

7. 特徴的な取組に対する考察と今後の展開

今回、両取組とも試行的な位置付で実施されたため、限定的な条件かつ小規模で行われたため、そのまま、今後の参考となるものではないが、両取組とも平成30年度以降も継続して検討を行い、つぎの取組に繋げていくことが必要である。

特に「観光と連動した地域振興の取組」については、東エコネット協議会に参加している自治体から、さらなる強化を望む声が多く、栃木県小山市では平成30年3月に「小山市渡良瀬遊水地観光地化推進5カ年計画（エコ・アグリツーリズムの推進）」が策定され、そのなかで関東エコネット協議会の取組と連携した取組を多く打ち出している。

また、平成30年度は旅行業界側の意見を収集するため、インフラツーリズム関連の取組として、日本旅行業協会と渡良瀬遊水地エリアにてモニターツアーを実施する予定。

関東エコネット協議会では「関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本構想」にて2050年までのロードマップを定めており、第10回生物多様性条約・締約国会議より10年を経過する2020年を短期目標達成年として以下の目標を設定している。

- a) 関東地域の複数の流域において、コウノトリの飼育・繁殖、野生復帰に向けた取組みが推進されている。
- b) 関東地域の河川で治水と環境が一体となった湿地の整備・保全が、農地では生物多様性を育む農法や基盤整備の取組み等が進められている。
- c) 関東地域におけるコウノトリの野生復帰の取組みに多くの市民が参加し、協力する市民団体や企業等が広がっている。

今回紹介した取組をはじめ、各種取組を短期目標達成に向けて推進する。最終的には、到達目標である「コウノトリやトキが絶滅の危機から脱し普通種になっていると共に、河川や農地等の水辺には多様な生物にあふれた魅力的な空間が形成されている。また、自然空間を活かした賑わいのある地域づくりが進み、都心部とそれを取り巻く周辺地域との対流現象を契機に、グリーンインフラにより関東地域の安全・安心が担保され、環境と経済と社会が調和した持続可能な社会が形成されている」状態を目指し、各種取組を推進する。

【参考文献】

- 1) H29関東エコロジカル・ネットワーク推進手法検討業務報告書（H30.2）
- 2) 関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成 基本構想（H27.3）
- 3) 関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成 基本計画（H28.3）